

速 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成13年度病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、速報第5号を発表したので送付します。

平成13年度病害虫発生予察速報第5号

- 1 対象作物 カキ、カンキツ類
- 2 病害虫名 果樹カメムシ類
- 3 発生予想
 - (1) 本年は、主たる繁殖植物であるヒノキやスギの球果の結実量が多いので、現時点での発生量が多いが、幼虫が少ないので、今後大幅に増加する可能性は低い。
 - (2) 9月上旬のヒノキ球果の口針鞘数から予測すると、9月下旬までにヒノキから離脱する可能性は低い。しかし、局地的には離脱が起こり、被害が発生する園もある。
- 4 予想の根拠
 - (1) 9月2半旬のヒノキ球果のビーティング調査では、1枝当たり15.5頭（前年1.4頭、平年2.9頭）で極めて多く、大部分が成虫で幼虫は少なかった（第1表参照）。
 - (2) 病害虫防除所が調査した9月上旬のヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、県内13カ所の平均で7.1本と少なかったが、ヒノキ林がスポット的に存在するような調査地点では、約20本であった。
 - (3) 福岡農総試が調査した8月23日のヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、浮羽町、吉井町及び田主丸町の3カ所の平均が4.9本と少なかった。
 - (4) 筑紫野市吉木におけるチャバネアオカメムシの8月1半旬から9月2半旬までの累計誘殺数は、予察灯では2,370頭（平年：3,583頭、前年：2,569頭）と前年並みであるが、集合フェロモントラップでは15頭（前年：2,468頭）と少なかった。また、ツヤアオカメムシの累計誘殺数は、予察灯では、240頭（平年：468頭、前年：174頭）と前年よりやや多いが、集合フェロモントラップでは0頭（前年：15頭）と少なかった。
 - (5) 9月2半旬現在、一部のカキ園で局地的に被害が発生している。

5 防除対策

- (1) 一般的な園では、9月末までは果樹カメムシ類を対象とした防除の必要はなく、他害虫類との同時防除で対応できる。
- (2) 例年、カメムシ類の被害を受ける園では、園内外での発生状況の把握に努め、必要に応じて防除を行う。
- (3) 防除薬剤は、平成13年度果樹病害虫防除基準を参照し、農薬安全使用基準（収穫前使用規制日数等）を遵守する。

第1表 カメムシ類のヒノキにおける寄生状況

調査地点名	チャハネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサキカメムシ		ヒノキ球果 口針鞘数
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	
志摩町師吉	16.8	0.4	4.0	0	0	0	2.5
前原町櫛	40.2	0.2	16.6	0	0.8	0	4.6
古賀市青柳	5.6	0.4	2.6	0.2	0.2	0	6.6
宗像市王丸	0.6	0.2	0.8	0.4	0	0.8	0.9
宗像市山田	2.6	0.8	4.0	0.4	0	0.2	10.8
玄海町池野	21.8	4.8	3.2	2.4	0.2	0	7.7
甘木市柿原	2.6	0.2	1.0	0.4	0	0	8.0
朝倉町北八坂	4.2	1.8	4.0	0	0	0.2	19.7
朝倉町山田	1.6	0	2.8	0.2	0	0	1.9
杷木町高山	7.0	4.0	1.6	0.4	0.4	0	7.7
浮羽町小塩	9.6	0.2	2.0	0	0.4	0	11.3
田主丸町益生田	5.2	0.2	7.4	0	0	0	5.5
庄内町入水	4.2	6.6	1.2	0.8	0	0.2	5.6
平均	9.4	1.5	3.9	0.4	0.2	0.1	7.1

注) 調査は9月6日～10日

注) 1地点5枝のたたき落とし法

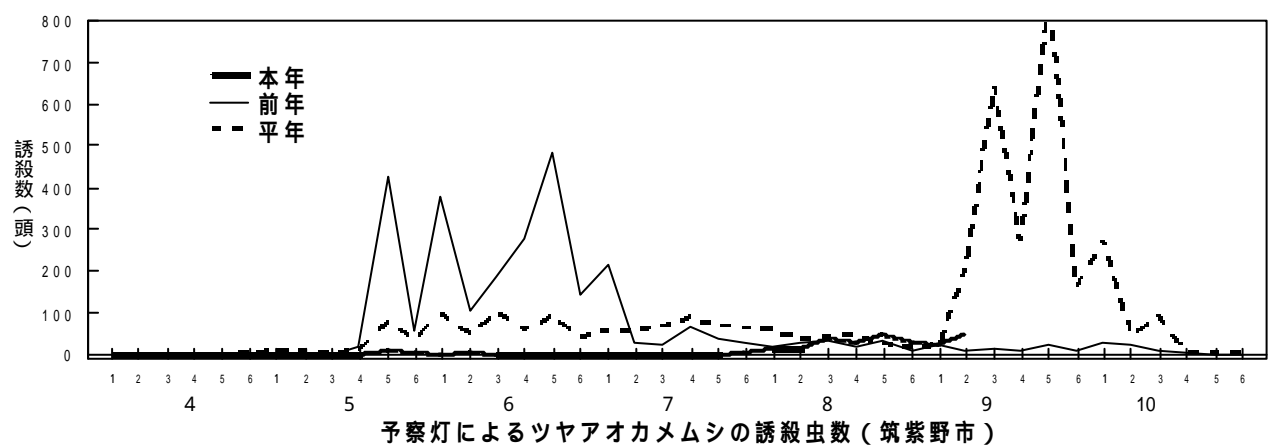
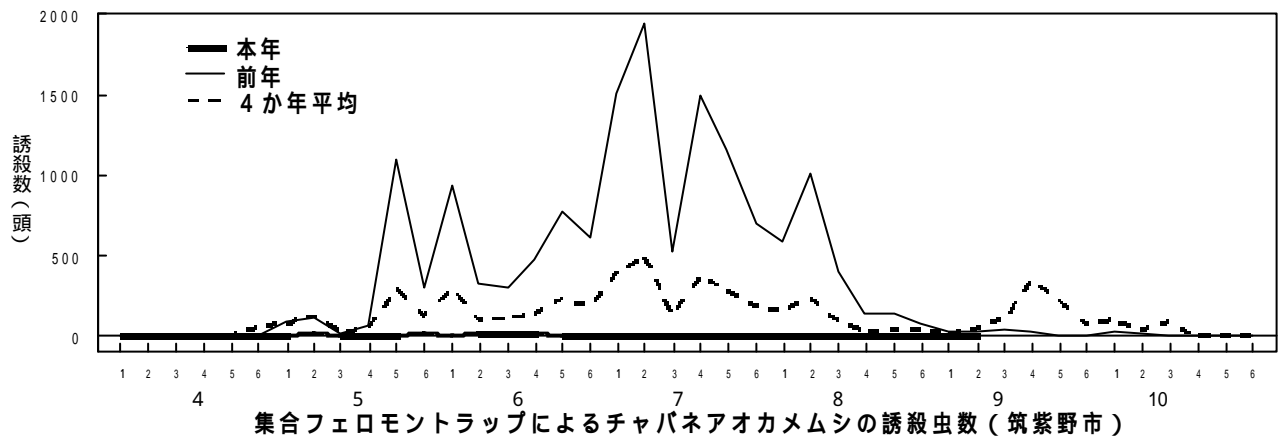
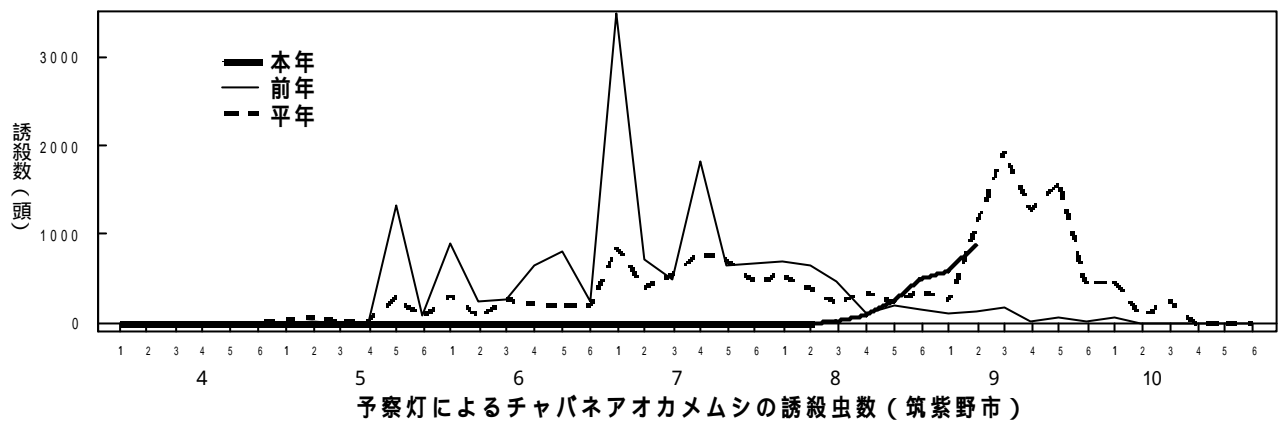
注) カメムシの数値は1枝当たりの虫数、頭

注) 口針鞘数はヒノキ球果1果当たりの数値、本

第2表 9月上旬のヒノキ球果における口針鞘数の年次比較（防除所調べ）

調査年		口針鞘数（本）
平成	8年（1996）	-
	9年（1997）	-
	10年（1998）	22.7（9）
	11年（1999）	18.3（10）
	12年（2000）	23.2（6）
	13年（2001）	7.1（13）

注) 県内6～13カ所平均、-：未調査、（）内は調査地点数



第1図 チャバネアオカメムシの予察灯及び集合フェロモントラップによる誘殺状況
（筑紫野市吉木）